



## SG12 副議長 (新任)

日本電信電話株式会社

やまぎし かずひさ  
山岸 和久

〈プロフィール〉

**専門領域**：性能、QoS及びQoEの研究・標準化

- 2003年 早稲田大学大学院基幹理工学部 修了
- 2003年 日本電信電話株式会社入社
- 2005年 ITU-T SG12に参画、品質評価技術の標準に携わる
- 2013年 早稲田大学大学院基幹理工学部 博士(工学)取得
- 2013年 NTTぶらら 技術開発本部
- 2017年 ITU-T SG12 レポート就任(現在に至る)
- 2021年 ITU-T SG12 WP3副議長就任(現在に至る)
- 2022年 ITU-T SG12 副議長就任(現在に至る)

—— 先のWTSA-20での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

**山岸** 2005年にITU-T SG12に参画してから、勧告エディタ、レポート、WP副議長と歴任し、この度、SG12副議長に任命されました。多くの方のサポートもあり、ベテランの議長、副議長がいる中で任命され、大変光栄に存じます。

—— ご担当事項(ご専門領域)とご経歴、ITU(SG)との係わり(年数など)、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

**山岸** 入社以来、映像配信等の映像系の品質評価技術の研究開発を進めており、SG12に2005年に参画し、TV電話、IPTV、アダプティブビットレート映像配信等の品質推定技術の標準化に貢献してきました。これらの勧告の制定を重ね、他国の提案をまとめるためレポートやWP副議長として活動しております。

—— 次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えでしょうか。

**山岸** 5G等のネットワーク技術が進展することで、新たな通信サービスの展開が期待されます。そのようなサービスの品質もまた、従来の電話や映像配信サービス同様に評価できるようにしていくことが、安定した通信サービスの提供には欠かせません。このような新サービスに対し、タイムリーに勧告を提供していくことが重要だと考えています。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようなところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

**山岸** 5G、6Gと新しいネットワークが展開され、新しいサービスも創出されてくることが予想されます。QoS・QoE関連技術は、サービス展開されたのちに技術確立されることが多く、技術創出のタイムリーさに欠ける面があります。そのため、この時間を短くしていくことを進めたいと考えています。—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものか想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうかお考えでしょうか。

**山岸** Work itemで検討内容を合意しても、そこから勧告を制定するまでには、多くの検討や合意が必要になります。加盟国や参加機関により、重要視する項目は異なるため、それらを見極め、妥協点を見つけ進めていくことが重要だと考えています。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われませんか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

**山岸** コロナウイルスの拡散により、オンライン会議の開催が当たり前の時代に突入しました。これにより、フレキシビリティも高まり、通常であれば、他のSGの会議に参加することは難しかった点が、オンラインで議論に参加することも容易になりました。現地で濃密に議論することももちろん重要ですが、このように現地とオンラインの組合せにより、より活発に議論ができるようになっていくと考えますし、そのようにしていかないといけないと考えています。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

**山岸** SG12で取り扱う品質に関連することだけではありませんが、サービスの品質を議論する上では、政府関係やICT産業界からのインプットだけでなく、将来的な学術検討をする大学などの協力も不可欠です。その中で中長期的に何を実施していくかを合意し、勧告としてまとめられるように協力していくことが重要と考えます。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

**山岸** 新しいことを進めるには、単に想像力だけを働かせるのではなく、実際に手を動かしてみ、進めていくことが重要と感じます。そのように考えるからか、瞬間的に周囲状況を判断し進めていくスポーツを観戦することが好きですし、日々ランニングをしています。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

**山岸** 様々な技術開発が行われ、サービス提供されますが、最終的にはユーザがどのようにその品質を感じるかが重要です。SG12では体感品質に重点を置き検討を進めており、読者の皆様にもなじみやすい検討だと感じます。

### 【読者のための豆知識】

SG12の活動内容：性能、サービス品質(QoS)及びユーザー体感品質(QoE)